大学入試
実戦国語
漢文・史伝

見本

漢文 史伝

基礎問題

1

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（ただし、送り仮名を省略した部分がある）（白百合女子大・文）

文侯与虞人期猟。A 是日飲酒楽。天雨。文侯将出。B 左右曰、今日飲酒楽、天又雨。公将焉C 之。文侯曰、吾与虞人期猟。雖楽、D 豈可不一会期哉。乃往、身自罷之。魏於是乎始強。（「戦国策」）

解答・解説⇩別冊138ページ

問一 傍線部A・Bを現代語訳せよ。

問二 傍線部Cの「之」と最も近い意味の漢字を文中から選んで記せ。

問三 傍線部Dを書き下すと、「①ヒトタビキニクワイセ②」となる。空欄①・②を片仮名で埋めよ。

問四 魏が強くなったのはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えよ。

イ 文侯が狩猟のような殺生をやめたから。

ロ 文侯が信義に厚かったから。

ハ 文侯が虞人を大事に扱ったから。

ニ 文侯が仁政を行ったから。

ホ 文侯が飲酒の楽しみを教えたから。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（設問の都合上、本文や送り仮名を省いたところがある。）（京都産業大・経営）

解答・解説⇩別冊139ページ

*有司言レ有ニ子ノ殺レ母ヲ者、*籍曰、嘻、殺レ父ヲ之類也、B殺レ b 禽獣之不若。衆乃悅服。

（「晋書」）

*有司＝官吏のこと。　籍＝晋代の文学者で、「竹林の七賢」の一人として知られる阮籍。

乃可、至レ殺レ母ヲ乎。坐スル者怪ニ其ノ失言ヲ。帝曰、殺レ父ヲ天下之極悪、A而以為可乎。籍曰、禽獣知レ母ヲ而不レ知レ父、殺レ a 禽獣

問一　傍線部Aをすべて平仮名で書き下し文にせよ。

問二　空欄a・bに入るべき最も適当な文字をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

イ　父　　ロ　道　　ハ　鳥　　ニ　籍

ホ　母　　ヘ　帝　　ト　子　　チ　人

問三　傍線部Bを訳せ。（空欄bには適当な文字を補って訳すこと。）

[redacted]

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（大谷女子大）

宋ノ顧徳謙ノ妻張氏、事レ＊姑ニ甚ダ謹。適夢ニ有リテ以ニ＊宿世ノ事ヲ責ムルモノ之ヲ曰ク、「明日A当レ死スニ於雷ニ。」覺メテ而流涙＊悲噫。姑問フニ之ヲ不ニ敢ヘテ対ヘ。明日果シテ暴風天昏。因ツテB念ヲ、＊震死ハ既ニ不レ可カラレ免ルル、姑老イタリ矣、Dニ奈ニ雷聲驚怖スルニ何。□易カヘレ服ヲ出デテ居リニ屋外ノ桑下ニ、立チテ以テ俟マツレ死ヲ。雷電大イニ作オコリ、漸クニシテ而静カニ、E息ム。是ノ夜復タ夢ニ曰ハク、「實ハ当レ死スベキモ、F孝念モテ可シトレ償フ也。」（「新續列女傳」）

＊姑＝しゅうとめ。宿世＝前世。悲噫＝悲しみむせぶ。震死＝落雷にうたれて死ぬ。

解答・解説⇩別冊140ページ

問一 (A) 傍線部Aの漢語は再読する。同様に再読する次の傍線部(ア)(イ)の読み方を平仮名で書け。

惟ダ仁者ノミ(ア)宜レ在ニ高位ニ。（「孟子」）

過ギタルハ(イ)猶レ不ルガバ及ル。（「論語」）

(B) 中国人が文章を読む場合、どの漢字も一度しか読まないのに、漢文を訓読するときには、なぜ(A)の例のように一字を再読することがあるのか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

イ 漢字には、文章の上で、再読しないと充分に訳すことができないものがあるので。

ロ 一字を再読すると、変化があっておもしろいし、また、訓読のリズムがより力強く美しくなるので。

ハ いくつかの漢字については、それが出てくると、必ず再読するという法則があるので。

問二 傍線部B・C・Eの読み方を、平仮名で書け。

問三 傍線部Dを平易な口語に訳せ。

問四 文中の空欄には、「そこで」という意味の接続詞が入る。その語を次の中から選び、記号で答えよ。

イ 輒　ロ 乃　ハ 即　ニ 則

問五 傍線部Fの「孝念」を、具体的に描写している部分はどこからどこまでか。その始めと終わりの二字を書け。

4

次の漢文と説明文を読んで、後の問いに答えよ。（京都産業大・経営）

沛公旦日従百余騎来見項王。至鴻門謝曰、臣与将軍戮力而攻秦。将軍戰河北、臣戰河南。然不自意、能先入関破秦、得復見将軍於此。今者有小人之言、A令将軍与臣有郤。項王曰、此沛公左司馬曹無傷言之。B不然、籍何以至此。

（「史記」）

解答・解説⇩別冊141ページ

天下に名高い「鴻門の会」の始まりである。沛公は何とか項王の怒りをしずめねばならない。従って、彼は自分を［ア］と称する。彼の謝辞は、三つの内容より成立している。①仲間意識、②事態の偶然性、③事実の過小評価の三つである。先ず彼は［a］と言って、我々は仲間であり、共通の敵は秦であると強調する。そして、［b］と言って、自分が関中に先に入ったのが、計画的意図的なものではなく、戦争につきものの偶然であり、幸運からであったとする。「能」や「得」及び［イ］の字がそれを一層印象づける。最後に、［c］と言い、双方の誤解はとるに足りない者の言から起こったと、事実を抹消しにかかるのである。それに対して項王は、③の事実の過小評価だけに反駁している。事実が［d］より出たからこそ信じたのであるから。

問一 傍線部Aは「しょうぐんをしてしんとげきあらしむ」と読む。返り点の正しいのはどれか。次から選び、記号で答えよ。

イ 令二将軍一与レ臣有レ郤。　ロ 令三将軍与二臣有一レ郤。　ハ 令二将軍与レ臣有一レ郤。

ニ 令下将軍与臣有ち郤。　ホ 令二将軍一与二臣有郤一。

問二 空欄ア・イに適当な語を次から選び、記号で答えよ。

イ 沛公　ロ 臣　ハ 将軍　ニ 然　ホ 復　ヘ 今者

問三 空欄a～cに適当な語句を次から選び、記号で答えよ。

イ 至鴻門謝曰　ロ 戮力而攻秦　ハ 将軍戰河北　ニ 不自意

ホ 先入関　　ヘ 小人之言　　ト 有卻

問四 空欄dに適当な語句を次から選び、記号で答えよ。

イ 小人之言　　ロ 沛公左司馬　　ハ 曹無傷　　ニ 何以至此

問五 説明文にある、②事態の偶然性というのは、漢文中のどこからどこまでか。その最初と最後の字二字ずつを抜き出せ。

問六 傍線部Bを訳せ。

標準問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（送り仮名を省いた箇所がある。）（明治大・文）

＊季札之初使A北過＊徐国。徐君好季札剣。B口弗敢言。季札C心知之。為使＊上国未献。還至徐。徐君已死。於是乃解其宝剣、繫之徐君＊塚樹而去。従者曰、「徐君已死。尚誰予乎。」季子曰、「不然。始吾心D已許之。E豈以死＊倍吾心哉。」（「史記」）

＊季札＝春秋時代の呉王寿夢の第四子。　徐＝今の江蘇省徐州付近にあった小国。　上国＝周の都洛陽付近の国々。　塚樹＝墓に植えた木。　倍＝そむく。

解答・解説⇨別冊143ページ

問一　傍線部A「北過徐国」を読み下すと次のようになる。空欄I、およびIIに当てはまる適切な仮名を記せ。

北のかた徐国［I］過［II］。

問二　傍線部B「口弗敢言」の読みを、すべて平仮名で記せ。

問三　傍線部C「心知之」の「之」は、何を指しているか。本文中から適切な語句を抜き出して記せ。

問四　傍線部D「已許之」とは、どのようなことか。簡潔に記せ。

問五　傍線部E「豈以死倍吾心哉」の解釈として適切なものを、次の中から選び出して、その記号を記せ。

イ　徐君が亡くなったからといって彼に対する同情心がかわることがあろうか。
ロ　徐君が亡くなったからといって、どうして彼に対する同情心が増すことがあろうか。
ハ　徐君が亡くなったからといって、どうして自分の気持ちに反することができようか。
ニ　徐君が亡くなったからといって、どうして自分の気持ちにしたがうことができようか。

問六　この逸話から知られる季札の人柄として適切なものを、次の中から選び出して、その記号を記せ。

イ　死者に対して礼儀正しい人物　　ロ　自分の思いに対して誠実な人物
ハ　人情が深くて恩義を忘れない人物　　ニ　他人との約束を守る律義な人物

6 **次の文章を読んで、後の問いに答えよ。**（日本大・経済）

有下献ニ不死之薬ヲ於荊王一者。＊謁者操リテ以入ル。＊中射之士問ウテ曰ハク、「(1)可レ食フ乎ト」。曰ハク、「可ナリト」。A ツテ奪ヒテ而食フレ之ヲ。王怒ツテ、B メントス人ヲシテ殺サ中射之士。中射之士B ニ人ヲシテ説カ王ニ曰ハク、「臣問フニ謁者一、謁者曰ハク、『可シトレ食フ』。臣故ニ食ヘリ之ヲ。是レ臣無クシテ罪、而罪在リニ謁者一。且ツ客獻ジニ不死之薬ヲ、臣食ヒテ之ヲ王殺サバ臣、是レ死薬也。王殺シテ無罪之臣ヲ、而明ラカニスト(2)人之欺クヲ王ヲ」。王乃チ不レ殺サ。

（「戰國策」）

＊謁者＝取りつぎの官。　中射＝王に侍御する官。

解答・解説⇩別冊144ページ

問一 本文中の空欄A・Bに入る漢字を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。Bは二箇所とも同じ字が入る。

A…イ 因　ロ 寄　ハ 倚　ニ 依

B…イ 占　ロ 使　ハ 爲　ニ 締

問二 傍線部(1)「可レ食乎」の解釈として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ 飲む方がよいのか　ロ 飲まねばならないのか　ハ 飲めるのか　ニ 飲ませるのか

問三 傍線部(2)「人」は誰を指しているのか。次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ 獻不死之薬於荊王者　ロ 謁者　ハ 中射之士　ニ 臣

問四 本文の主旨として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ 詭弁を弄して死をまぬがれた家臣の行為を皮肉っている。

ロ 不死の薬を飲んだ家臣を殺そうとする荊王の冷酷さを批判している。

ハ 荊王に不死の薬を献上した忠義心を称賛している。

ニ 不死の薬を飲んで死を招きかねない不合理を論じている。

問五 『戰國策』を編集した劉向の編著書を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ 史記　ロ 説苑　ハ 春秋　ニ 十八史略

7 **次の文章を読んで、後の問いに答えよ。**（立命館大・経済）

客有過主人者。見其竈＊直突、傍有積薪、客謂主人、更為＊曲突、遠徙其薪。不者(1)且有火患。主人黙然不応。A而家果失火。隣里共救之、B而得息。於是殺牛置酒、謝其隣人。灼爛者在上行、余各〻以功次坐。而(2)不録言曲突者。(3)人謂主人曰、郷使聴客之言、不費牛酒、終無火患。今論功而請賓、曲突徙薪無恩沢、焦頭(4)焼額為上客耶。主人乃寤而請之。

＊直突・曲突＝「突」は煙突のこと。

（「漢書」）

解答・解説⇩別冊145ページ

問一 空欄A・Bに入れるのに最も適当と思われる語を、それぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

イ 今　ロ 大　ハ 幸　ニ 急　ホ 近　ヘ 遂　ト 俄　チ 逆

問二 傍線部(1)「且有火患」を、すべて平仮名に直して、書き下し文に改めよ。

問三 傍線部(2)「不録」とはどういう意味か。十字以内で書け。

問四 傍線部(3)「人謂主人曰」とあるが、次の中から主人に言わなかったことを一つ選んで、記号で答えよ。

イ あの時、忠告を聴いていたら、火事を出さずにすんだはずだ。

ロ あの時、忠告に従っていたら、宴会の費用など出さなくてすんだのだ。

ハ 消火に活躍した人の席順を、そのけがの程度に応じて決めるべきではない。

ニ かんじんの人を放っておいて、消火に活躍した人だけを上座にすえるつもりか。

ホ あなたは今、消火に功績のあった人だけを宴会に招待しているではないか。

問五 傍線部(4)「之」とは、何を指しているか。本文中からそのまま抜き出して書け。

8

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（設問の都合で、送り仮名を省いたところがある。）

張*乞人、*順天*永清人。A失其名。父死、*行乞以養母。穴土為居。天大雪、*知県魏継斉過其処、聞歌声出地中。怪而呼問之、曰、「今日母生日、B歌以勧*餐耳。」継斉命車載其母子至県、継斉母畀其母粟及布、継斉与銀十*緡。乞人*叩頭曰、「官母賜我母、C不敢不受官賜我、我不敢受。」継斉問其故、曰、「*民愚D不知此十緡官何所受之。我母年八十、我年六十一、為清白百姓足矣。」継斉不復E強、将為*営室、乞人F負其母去、不知所終。

（「清史稿」）

解答・解説⇩別冊146ページ

*乞人＝こじき。　順天＝順天府の略称。今の北京を中心とする行政区画。　永清＝県名。　行乞＝道を歩きながら物を乞(こ)う。　知県＝県の長官。　餐＝食事。　緡＝金銭の単位。　叩頭＝頭を地にたたきつけて敬礼する。　民愚＝庶民の自称。　営室＝家屋。

問一 傍線部A「失其名」とは、どういう意味か。次のイ～ヘのうちから、最も適当なものを一つ選べ。

イ 自分の名を忘れてしまった
ロ 世捨て人として自分の名も捨ててしまった
ハ 身分が低いのでここでは名を記さない
ニ 通称が名と間違えられている
ホ 何という名か知られていない
ヘ 戸籍簿に名が記されていない

問二 傍線部B「歌以勧餐耳」とは、どういう意味か。次のイ～ヘのうちから、最も適当なものを一つ選べ。

イ 私は歌を歌いながら、母のために心をこめて食事の用意をしていたのです。
ロ 母が楽しく食事ができるように、私は歌を歌ってあげていたのです。
ハ 母は楽しそうに歌を歌いながら、食事の準備に励んでいたのです。
ニ 母の歌が終わったら、食事をしようと勧めるつもりでいたのです。
ホ 一緒にお祝いの歌を歌ったのち、晩餐に入るつもりでいたのです。
ヘ 一緒に歌を歌うことで、晩餐のかわりにしようとしていたのです。

問三 傍線部C「不敢不受」とは、どういう意味か。次のイ～ヘのうちから、最も適当なものを一つ選べ。

イ　受け取らないわけにはいきません　　ロ　是非とも受け取らせていただきます
ハ　受け取らなくてもよいでしょう　　ニ　受け取る道理はありません
ホ　受け取らない人はいないでしょう　　ヘ　受け取らないに越したことはありません

問四　傍線部D「不レ知二此十緡官何所受一之」はどう読むか。次のイ～ヘのうちから、最も適当なものを一つ選べ。

イ　この十緡の官いづくよりこれを受くるかを知らず。　　ロ　この十緡、官いづくんぞこれを受くるか知らず。
ハ　この十緡、官いづくよりこれを受くるかを知らず。　　ニ　この十緡の官いづくよりこれを受くるかを知らざらんや。
ホ　この十緡、官いづくんぞこれを受くるか知らざらんや。　　ヘ　この十緡、官いづくよりこれを受くるかを知らざらんや。

問五　次の各語群のイ～ホには、傍線部E・Fと異なる意味の「強」「負」を含む熟語がそれぞれ一つずつある。次のイ～ヘのうちから、それを選べ。

E…強
イ　強要
ロ　強制
ハ　強奪
ニ　勉強
ホ　強硬

F…負
イ　抱負
ロ　勝負
ハ　自負
ニ　負担
ホ　負債

問六　張乞人はどのような暮らしを望んでいるか。その説明として最も適当なものを、次のイ～ヘのうちから一つ選べ。

イ　余命いくばくもない母のために、せめてこじきをしなくてすむ程度の暮らしをしたい。
ロ　年老いた母に孝行するために、できることなら自分一人の力で家を建ててあげたい。
ハ　母子とも老い先短いのだから、お上の世話などにならず、清潔な庶民としての暮らしを全うしたい。
ニ　毎日、老母とともに陽気に歌を歌って暮らせばよいのであって、金や住まいなどに未練はない。
ホ　母はともかく、自分としてはお上の厄介（やっかい）になるのは恥ずかしいことなので、よその土地で暮らしたい。
ヘ　汚濁に満ちた役人に反省を促すために、だれの世話にもならないこじきの生活を続けていきたい。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（学習院大・文）

晏子為斉(1)相出。其(2)御之妻、(3)従門間。其夫為相御、擁*大蓋、策*駟馬、意気揚揚、甚A自得也。既而帰。其妻B請去。夫問其故。妻曰、「晏子長八尺、(5)乃為人僕御。然子之意自以為足。妾是以求去也。」其後、夫自抑損。晏子怪而問之。御以C実(6)対。晏子今、子長八尺、(5)乃為人僕御。然子之意自以為足。妾是以求去也。」其後、夫自抑損。晏子怪而問之。御以C実(6)対。晏子薦以D為大夫。

*大蓋＝大きいほろ。　駟馬＝四頭の馬。

（「史記」）

解答・解説⇩別冊148ページ

問一　傍線部(3)・(5)・(6)の読みを現代仮名遣いにより、平仮名で記せ。

問二　傍線部(1)・(2)の意味を記せ。

問三　傍線部(4)の「下」と同じ意味で用いられている語句を本文中から抜き出して記せ。

問四　傍線部A・Cの説明として最も適当なものを、それぞれ次のイ～ニの中から選び、記号で答えよ。

A…イ　自分で理解している。　ロ　自分で満足している。　ハ　自分で報いを受けている。
　ニ　利益を自分のものにしている。

B…イ　誠実　ロ　成果　ハ　実情　ニ　中身

問五　傍線部Bについて、なぜ妻は「請去」たのか。最も適当な理由を、次のイ～ニの中から選び、記号で答えよ。

イ　夫の身分がひくすぎるから。
ロ　夫が現状に甘んじているから。
ハ　夫の身分が高すぎるから。
ニ　夫が身長を自慢するから。

問六　傍線部Dの記述に最もよく適合する説明を、次のイ～ニの中から選んで、記号で答えよ。

イ　晏子は妻の正直さに満足して夫を大夫とした。

ロ　晏子は妻のことばに感心して夫を大夫とした。
ハ　晏子は夫のことばに満足して夫を大夫とした。
ニ　晏子は夫の態度に感心して夫を大夫とした。

10

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（法政大・法）

（時：後漢の末。
所：荆州。
登場人物：統（龐統、備のブレイン）・備（劉備）。）

統説備曰、「荆州荒残、*人物*殫尽、東有*呉孫、北有曹氏。(1)鼎足之計難以得志。今*益州国富民強、戸口百万、兵馬所*出必具、*宝貨無求於外。今可*権借以定大事。」

備曰、「今(2)与吾為水火者曹操也。操以A吾以B、操以C吾以D、操以*譎吾以忠。毎与操反、事乃可成耳。今以*小故而失信義於天下者、吾所不取也。」

統曰、「権変之時、固(3)非一道所能定也。兼E攻昧*五伯之事。逆取順守、報之以義、事定之後、封以大国。(4)何負於信。今日不取終為人利耳。」

（「蜀書・龐統伝注」）

*人物＝人材物資。　殫尽＝払底。　呉孫＝呉の孫権。　益州＝蜀、今の四川省。　出＝動員する。　宝貨＝貴重な物資。　権＝臨機の処置として。　譎＝いつわり。　小故＝つまらぬこと。　五伯＝春秋五覇。

解答・解説⇩別冊149ページ

問一 傍線部(1)「鼎足之計」とは次のどれに相当するか。一つを選んで、記号で答えよ。

イ 合従策　ロ 連衡策　ハ 天下三分の計　ニ 天下四分の計

問二 傍線部(2)「与吾為水火者」はどんな意味か。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えよ。

イ わたしとなにかにつけて正反対の態度をとるのは

ロ わが軍の奮闘によって水上で焼討ちにあったのは

ハ わが陣営のために重要物資を補給してくれるのは

問三 傍線部(3)「非一道所能定也」はどんな意味か。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えよ。

イ ひとつの方法を守っていたのでは平定はできません。

ロ　ひとつの方法を貫くのでなければ平定はできません。
ハ　もうひとつ別の方法でなければ平定はできません。

問四　空欄A・Bには〔イ急　ロ寛〕の何れかが入る。Aに入るものを選んで、記号で答えよ。

問五　空欄C・Dには〔イ仁　ロ暴〕の何れかが入る。Cに入るものを選んで、記号で答えよ。

問六　空欄Eに入るのは次の何れが適当か。一つ選んで、記号で答えよ。
イ　強　ロ　弱　ハ　邪

問七　傍線部(4)「何負於信」はどんな意味か。次の中で最も適当なものを選んで、記号で答えよ。
イ　じつに信義にかなったことだ。
ロ　どうして信義に反するといえよう。
ハ　なんとも信義に反することである。

問八　次のうち龐統の考えを合致するものをすべて選んで、記号で答えよ。
イ　荆州に根拠をおけば天下は分裂してしまう。
ロ　他勢力に対抗するには益州に拠るほかない。
ハ　早くしないと益州は他に取られてしまう。
ニ　益州侵攻は道徳的に正しい行為である。
ホ　とりあえず信義は棚上げして益州を取れ。

11

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（法政大・経営）

I　漢の武帝の治世も四十年に近づこうとしていた。老境を迎えようとする皇帝の心中には、神仙への憧れとともに西域の珍奇な品々、特に優秀な馬への関心が強まるばかりであった。あるとき西域帰りの臣下から、ひとつの情報がもたらされた。

「　（A）　」

さっそく武帝は、使者に大金を持たせて、はるか西方へと派遣した。しかし相手側は協議の結果漢の武帝の要請を断わることにした。その理由はこうである。

「　（B）　」

これに対する漢の使者の反応は「怒リテ妄言シテ而去ル」であったという。相手国の国王は侮辱されたと怒り、隣国郁成に指令して、帰国途中の漢の使者を殺させた。

知らせを受け、武帝は烈火のごとく怒ったが、それを見てある臣下が進言した。

「　（C）　」

武帝は相手をくみしやすしと見て、遠征軍の派遣を思いたった。遠征軍の総司令に選ばれたのは李広利、武帝の寵愛する李夫人の兄である。やがて遠征軍が西へ向けて出発した。

太初元年以テ広利ヲ為シ*弐師将軍ト、*発シ属国ノ六千騎及ビ郡国ノ悪少年数万ヲ、以テ往ク。期ス至リテ弐師城ニ取ルヲ善馬ヲ、故ニ号ス弐師将軍。弐師将軍之ノ西スルや也、既ニ過ギ*塩水ヲ、当タル道ニ小国恐レテ各ノ堅ク城守シテ不ニ肯ヘテ給セ食ヲ。比ロ至ル郁成ニ、*士ノ至ル者不レ過ギ数千ニ皆飢エ罷ムル。攻ムルニ郁成ヲ、郁成大イニ破ル之ヲ、所ニ殺傷スル甚ダシ衆。弐師将軍*与ニ左右ト計ル、

「　（D）　」

引キテ兵ヲ而還ル。往来二歳。至ルトキ*敦煌ニ、士ハ不レ過ギ十ノ一二。使メテ使ヲシテ上書セ言フ、

「　（E）　」

天子聞キレ之ヲ大イニ怒リ使メテ使ヲシテ遮ギラ*玉門ヲ曰ハク、

「　（F）　」

弐師恐レ因リテ留マル敦煌ニ。

*弐師＝地名。　発＝動員して。　塩水＝地名。　士＝ここでは兵士を指す。　与〔興〕＝～と。　左右＝側近。　敦煌＝地名。　玉門＝地名、玉門関。

解答・解説⇩別冊151ページ

II

①　*至ルモ郁成ニ尚ホ不レ能ハ挙グル、況ンヤ至ルヲ其ノ王都ニ乎。

② *大宛ノ兵弱。誠以漢兵三千、強*弩射可尽虜矣。

③ 軍ノ有敢入者、*輒斬之。

④ 漢去我遠、*安能致大軍乎。

⑤ 大宛有善馬、在弐師城、匿不肯与漢使。

⑥ 願且罷兵、*益発而復往。

*至＝～の如き。～などは。　大宛＝国名。弩＝弓の一種。　輒＝すなわち。どれもみな。　安＝「何」と同じ。　益発＝軍勢を補強して。

（「史記」「漢書」「資治通鑑」）

問一 Ⅰの「　」に入る文（A）～（F）を、Ⅱの①～⑥から選んで、記号で答えよ。

問二 次の各項を本文と比較し、一致するものは○、一致しないものは×、どちらともいえないものは△として答えよ。

イ 弐師将軍の名は隠された名馬の名に由来する。

ロ 弐師将軍の遠征軍は快進撃をつづけて目的地に達した。

ハ 弐師将軍の遠征軍は郁成で大敗を喫した。

ニ 弐師将軍の遠征軍が敦煌に戻った年は、ほぼ太初三年に当たる。

ホ 弐師将軍のの遠征軍は武帝によって玉門関の外に閉め出された。

ヘ 弐師将軍の遠征軍は三千の軍勢で大宛軍に大勝した。

12

次の〔A〕・〔B〕の文章を読んで、後の問いに答えよ。（上智大・外国語）

〔A〕孟嘗君（姓は田、名は文）は、戦国時代の斉国の人で、斉の君主の一族であり斉の宰相にもなった。その門下に食客数千人を養い、諸侯の間に名声が高かった。秦の昭王は孟嘗君が賢者だとのうわさを聞き、会見を申し込んだ。あるとき秦の昭王の招きに応じて出かけたところ、昭王はすぐさま彼を秦の宰相とした。しかし「孟嘗君は賢い人物であるが、秦にとっては危険だ」と昭王に勧告するものがあった。そこで昭王は孟嘗君を軟禁し、殺してしまうつもりであった。

孟嘗君使人*抵昭王*幸姬求a解。姬曰、「*妾願得君*狐白裘。」此時孟嘗君有一狐白裘。*直千金、天下無雙。入秦献之昭王、更無他裘。孟嘗君患之。徧問客、莫能對。最下坐有能爲狗盗者。曰、「臣能得狐白裘。」乃夜爲*狗以入秦宮藏中、取所献狐白裘至、以献秦王幸姬。幸姬爲言昭王。昭王b釋孟嘗君。孟嘗君得出、*c卽馳去。更*封傳、變名姓、以出關。夜半至*函谷關。秦昭王後悔出孟嘗君、求之、已去。卽使人馳*傳逐之。孟嘗君至關。*關法、雞鳴而出客。孟嘗君恐追至。客之居下坐者、有能爲雞鳴、而雞盡鳴。遂*發傳出。出如*食頃、秦追果至關。已後孟嘗君出、乃d還。始孟嘗君列此二人於賓客、賓客盡羞之。及孟嘗君有秦難、卒此二人e拔之。自是之後、客皆f服孟嘗君。

（「史記」孟嘗君列傳）

*抵＝至る。　幸姬＝寵愛の婦人。　妾＝わらわ。女性の卑下した自称。　狐白裘＝狐の腋（わき）の白い毛で作った皮ごろも。　直＝値と同じ。　狗＝いぬ。　封傳＝通行手形。　函谷關＝関所の名。　傳＝はやうま。　關法＝関所のおきて。　發傳＝手形をあらためる。一説に駅つぎの車を出すこと。　食頃＝食事をするほどのわずかな時間。　○雙＝双　獻＝献　對＝対　爲＝為　盗＝盗　藏＝蔵　釋＝釈　卽＝即　傳＝伝　變＝変　關＝関　雞＝鶏　盡＝尽　拔＝抜

〔B〕〔A〕の話をめぐって、宋の王安石は次のように論評した。

世皆稱孟嘗君能得士。士以故歸之、而卒賴其力、以脫於虎豹之秦。嗟乎、孟嘗君特雞鳴狗盗之雄耳。豈足以

解答・解説⇩別冊153ページ

言レ得ルレ士ヲ。不レバ然ラ、擅ニ齊之強ヲ、得ニ一士ヲ焉、之所ニ以不ルレ至ラ也。

（讀ニ孟嘗君傳ニ）

宜シク可シニ以テ＊南面シテ而制スレ秦ヲ。尚ホ何ソ取ラン雞鳴狗盗ノ力ヲ哉。夫レ雞鳴狗盗之出ツルハ其ノ門ニ、此レ士賴齊ニ斉

＊南面＝諸侯を従えて王者となること。

○稱＝称　歸＝帰　賴＝

問一〔A〕の傍線部a・b・dの字義と同じものはどれか。次のうちから適当なものを選べ。

a…イ　解明　ロ　和解　ハ　理解　ニ　解放　ホ　弁解

b…イ　釈明　ロ　釈然　ハ　釈放　ニ　氷釈　ホ　講釈

d…イ　償還　ロ　周還　ハ　帰還　ニ　召還　ホ　返還

問二〔A〕の傍線部c・e・fはどういう意味か。次のうちから適当なものを選べ。

c…イ　ただちに　ロ　しばらくして　ハ　とりあえず　ニ　従って　ホ　早足で

e…イ　抜群の働きをした　ロ　抜擢して用いた　ハ　危難を取り除いた　ニ　脱落してしまった　ホ　少し手ぬかりをした

f…イ　孟嘘君の大胆さに感服した　ロ　孟嘘君の政治力に感服した　ハ　孟嘘君の臨機応変の措置に感服した　ニ　孟嘘君の指導力に感服した　ホ　孟嘘君の人を見る力に感服した

問三〔A〕の話に出てくる「鶏鳴狗盗」とはどういう者をいうか。次のうちから適当なものを選べ。

イ　機智に富んだ人間　ロ　売り込みのうまい人間　ハ　非常の時に役に立つ人間　ニ　つまらない技能の持ち主　ホ　他人にまねのできない能力を持つ者

問四〔B〕の波線部の「稱」はどこまでかかっているか。次のうちから適当なものを選べ。

イ　孟嘘君能得士まで　ロ　以脱於虎豹之秦まで　ハ　雞鳴狗盗之雄耳まで　ニ　豈足以言得士まで

ホ　取雞鳴狗盗之力哉まで

問五　〔B〕の文章の趣旨から見て、次の項目のうち、正しいものをAとし、正しくないものをBとして答えよ。

イ　孟嘗君は士を集める才能を持っており、雞鳴狗盗をはじめ広く人材を集めた賢者であった。

ロ　孟嘗君は雞鳴狗盗をはじめ多くの人材を集めたと言われるが、さらに多数の士を集められたら天下が取れたはずだ。

ハ　孟嘗君は雞鳴狗盗などを養っていたから、本当の士がそのもとに集まらなかった。

ニ　孟嘗君は多くの人材を集めながらそれを活用できなかったために、天下の王者となれなかった。

13

次の文章は、中国の戦国時代の秦の宰相となった甘茂という人物に関する記事の一部である。この文章を読み、後の設問に答えよ。但し、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。（お茶の水女子大）

解答・解説⇩別冊155ページ

甘茂相レ秦。秦王愛ニ*公孫衍、(ア)与レ之ト間有レ所レ言。因(イ)自(　)謂レ之ニ曰、「*寡人且(　)レ相(　)a子(　)。」甘茂之吏、聞レ之、以テ告グニ甘茂ニ。甘茂因リテ入リテ見レ王ニ曰、「王得タリニ賢相ヲ。敢テ再拝シテ賀ス。」王曰、「寡人託スニ国ヲ於b子(　)。(1)焉ニ更得ニ賢相ヲ。」対ヘテ曰、「(2)王且(　)(　)(さい)レ相ニ犀首(　)(しゅ)。」王曰、「c子焉ニ聞レ之ヲ。」対ヘテ曰、「(3)犀首告レ臣ニ。」王怒ルニ於犀首之泄ラスヲ也、(ウ)乃(　)逐フレ之ヲ。

（「戦国策」）

*公孫衍＝戦国時代の遊説家。号は犀首。　寡人＝諸侯の自称。

問一 傍線部(1)「焉更得賢相。」の部分を訳せ。

問二 傍線部(2)「王且相犀首。」を書き下し文にせよ。書き下し文に用いた漢字には、すべて読み仮名をふること。

問三 傍線部a・b・cの「子」は誰をさしているか。本文中から選んでその人名を記せ。

問四 傍線部(ア)「与」、(イ)「自」、(ウ)「乃」の読みを送り仮名を含めて平仮名のみで記せ。現代仮名遣いでよい。

問五 傍線部(3)「犀首告臣。」は、甘茂が事実に反することを言ったのであるが、甘茂の言葉の真意を説明せよ。

発展問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（設問の都合で送り仮名を省いたところがある。）（九州大）

河南ノ楽羊子之妻、(1)不レ知ニ何氏之女一也。羊子嘗行レ路、得ニ a 遺金＊一餅一、還以レ与レ妻。妻曰、妾聞、志士ハ(2)不レ飲ニ盗泉之水一、＊廉者ハ不レ受ケニ＊嗟来之食一、(3)況拾レ遺求レ利而汚ニ其行一乎。羊子大慙、乃チ損ニ金ヲ於野一、而遠尋レ師ヲ学。一年ニシテ而帰ル。妻跪キテ問フニ其ノ故ヲ。羊子曰、(4)久行懐思、無ニ他異一也。妻乃チ引レ刀ヲ趨レ機ニ而言ヒテ曰、此ノ＊織ハ生レ自ニ蚕ノ繭一成ル於＊機杼ニ一糸而累ネテ、以テ至ル於寸ニ一。(5)累レ寸不レ已、遂成ニ＊丈匹一。今若シ断タバ此ノ織ヲ一也、則チ＊捐ニ失シ成功ヲ一、＊稽ニ廃セ時月ヲ一。b 夫子積レ学ヲ、若シ(6)中道而廃、何異レ断ニ此織一乎。羊子感ジテ其ノ言ニ、□還リテ終レ業ヲ。

（「後漢書」）

＊一餅＝もちのように平たい一枚の金貨。　廉者＝清廉で剛直な人。
嗟来之食＝「ほれ、食え」と、人を見下げた態度で投げ与えられた食べ物。　織＝おりもの。　機杼＝はたおりの機械。　丈匹＝丈も匹も、織り物の単位。　捐失＝すて、うしなう。台なしにする。　稽廃＝むだにする。

問一 空欄の中に漢字を一字入れるとすれば、どれが適当か。次の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えよ。

イ 又　ロ 復　ハ 亦　ニ 還

問二 傍線部 a「遺金」、b「夫子」の意味を記せ。

問三 傍線部(1)「不レ知ニ何氏之女一也」を、平易な現代文に改めよ。

問四 傍線部(2)「不レ飲ニ盗泉之水一」については、「渇しても盗泉の水を飲まず」という成語がある。この成語は、どのようなことのたとえとして用いられるか、分かりやすく記せ。

問五 傍線部(3)「況拾レ遺求レ利而汚ニ其行一乎」を、書き下し文に改めよ。

問六 傍線部(4)「久行懐思、無ニ他異一也」を、平易な現代文に改めよ。

問七 傍線部(5)「累レ寸不レ已、遂成ニ丈匹一」を、平易な現代文に改めよ。

解答・解説⇩別冊156ページ

問八 傍線部(6)「中道而廃、何異レ断ニ此織一乎」を、書き下し文に改めよ。

問九 次のA群の作品と最も関係の深いものをB群から選び、その記号を記せ。

A…**1** 漢書　**2** 資治通鑑　**3** 桃花源記　**4** 長恨歌　**5** 赤壁賦

B…イ 陶淵明　ロ 白居易　ハ 蘇軾　ニ 司馬光　ホ 杜甫

ヘ 李白　ト 范曄　チ 班固

15

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（但し、設問の関係で送り仮名を省いた箇所がある。）（名古屋大）

解答・解説⇩別冊158ページ

胡威字伯虎。少有*志尚。父質、以忠清顯。質之*爲荆州也、威自京都*省之。家貧、無車馬童僕、威自驅驢單行、拜見父。停廐中十餘日、告歸。臨辭、質賜絹一疋。爲道路糧。威跪曰、「(1)大人清白、不審於何得此絹。」質曰、「是吾俸祿之餘、故以爲汝糧耳。」威受之、辭歸。毎至客舍、自*放驢、取樵炊爨。食畢復進道、往還a如是。質*帳下都督、(2)素不相識、先其b將歸、請暇還家、陰*資裝百餘里要之。因與爲伴、毎事*佐助經營之。行數百里、威疑之、密誘問、乃知其都督也。因取向所賜絹、答謝而遣之。後因*他信、具以白質。質杖其都督一百、除吏名。(3)其父子清愼如此。

晉武帝賜見、論*邊事、語及平生。帝歎其父清、請威曰、「卿清孰與父清。」威對曰、「臣c不如也。」帝曰、「以何爲不如。」對曰、「(4)臣父清恐人知、臣清恐人不知、是臣不如者遠也。」

（「三國志」注）

*志尚＝高尚な志。　爲荆州＝荆州刺史（長官）になる。　省＝見舞う。　放驢＝驢馬につけた旅装をはずす。　帳下都督＝幕下の兵卒監督官。　資装＝旅の準備を整える。　佐助經營＝手助けしあれこれ世話をする。　他信＝別の手紙。　邊事＝辺境地帯の事情。

問一　次の傍線部の読みを記せ（全文平仮名）。

1　傍線部a「如レ是」。
2　傍線部b「將レ歸」。
3　傍線部c「不レ如也」。

問二　傍線部(1)「大人清白、不レ審於レ何得ニ此絹一」を、平易な現代語に訳せ。

問三　傍線部(2)「素不ニ相識一」を、平易な現代語に訳せ。

問四 傍線部(3)「其父子清慎如レ此」とあるが、父子それぞれの「清慎」の具体的内容を説明せよ。

問五 傍線部(4)「臣父清恐ニ人知一、臣清恐ニ人不レ知、是臣不レ如者遠也」を、平易な現代語に訳せ。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。但し、設問の都合で字句を省いたところがある。（北海道大）

解答・解説⇩別冊160ページ

太原*王霸少立高節。光武時連徵不仕。妻亦美志行。初、霸與同郡*令狐子伯爲友。後子伯爲楚相、而其子爲郡*功曹。子伯乃(1)令子奉書於霸。車馬服從雍容如也。霸子時方耕於野、聞賓至、投耒而歸。見令狐子、*沮怍不能仰視。霸見之有(2)愧容。客去而(3)久臥不起。妻怪問其故。始不肯告。妻請罪、而後言曰、吾與子伯素不*相若。向見其子容服甚光、舉措有適。而我*兒曹、*蓬髪歷齒。未知禮則、見客而有慙色。父子恩深。不覺自失耳。妻曰、君少修清節。不顧榮祿。(4)今子伯之貴孰與君之高。奈何忘宿志、而慚兒女子乎。霸屈起而笑曰、(5)有是哉。遂共終身隱遯。

（「後漢書」）

*王霸＝漢代の人。　令狐子伯＝人名。　功曹＝官名。郡に所属する官吏の任意賞罰を掌る。　沮怍＝ソサク。気後れして恥じる。　相若＝相似。　兒曹＝子供。　蓬髪歷齒＝貧しい容貌。

問一　傍線部(1)「令子奉書於霸」を平仮名のみで書き下せ。（例）學而時習之→まなんでときにこれをならふ。

問二　傍線部(2)「愧容」と同じ意味の語句を文中から抜き出して示せ。

問三　傍線部(3)「久臥不起」とあるが、王霸が「久臥」した理由について、六十字以内で説明せよ。

問四　傍線部(4)「令子伯之貴孰與君之高」について、「貴」と「高」の具体的内容を示しつつ解釈せよ。

問五　傍線部(5)「有是哉」という言葉には、王霸のどのような気持ちがこめられているか。七十五字以内で述べよ。

17

次に掲げる司馬遷の文(A)と揚雄の文(B)とは、ともに項羽について論じたものである。読んで設問に答えよ。但し、設問の都合で訓点を省いたところがある。（北海道大）

解答・解説⇩別冊162ページ

(A) 夫レ秦失スルヤ其ノ政ニ、陳涉首メレ a 難ヲ、豪傑*蠭起シ、相ヒ與ニ並ビ爭フ。(1) 不可勝數。然ルニ羽非ズシテレ有スルニ*尺寸ヲ乘ジレ*勢ニ起コリ*隴畝之中ニ、三年ニシテ遂ニ將ヒキヰテ*五諸侯ヲ滅ボシレ秦ヲ。分ツテ裂キテ天下ヲ而封ジテ王侯ヲ、政由リレ羽出ヅ。號シテ爲ス霸王ト。(2) 位雖モレ不ト終ヘ、近古以來未ダ嘗テ有ラ也。及ビテ羽*背キレ關ニ懷ヒレ楚ヲ放ツ逐シテ義帝ヲ而自ラ立ツ、上怨ムルハ王侯ノ叛クレ己ニ b 難シ矣。自ラ矜ホコリテ*功伐ヲ、奮ヒテ其ノ私智ヲ而不レ師トセレ古ニ、謂ヒテ霸王之業ナリト欲シテ以テ力ヲ征セント經ニ營スルコト天下ヲ五年、卒ニ亡ボシ其ノ國ヲ、身ハ死ス東城ニ。尚ホ不シテ*覺寤セ而不ニ自ラ*責過セ矣。乃チ引ク天亡ボスナリレ我ヲ、非ザルニ用フレ兵ヲ之罪ニ也。上 (3) 豈ニ不レ謬タガ哉。

（「史記」）

(B) 或ルヒト問フ、楚敗レ垓下ニ、方アタリテ死スルニ曰ハク、(4) 天也。誠マコトナル乎。曰ハク、漢ハ*屈サシメ*羣策ヲ、羣策屈サシム羣力ヲ。楚ハ懦ニミテレ羣策ヲ而自ラ屈スル其ノ力ヲ、屈サシムルレ人ヲ者ハ克チ、自ラ屈スル者ハ負ク。天曷ナンゾ故ことトセン焉。

（「法言」）

*蠭＝蜂。　尺寸＝小さなもののたとえ。　勢＝勢。　隴畝＝はたけ。　五諸侯＝斉、趙、韓、魏、燕。　背關＝関中の地を捨てる。　功伐＝てがら。　覺寤＝覚悟。　責過＝責める。　屈＝尽くす。　羣＝群。

問一　傍線部a・bの「難」はそれぞれどういう意味か。漢字二字の熟語で表せ。

問二　傍線部(1)「不可勝數」を平仮名のみで書き下せ。（例）學而時習之→まなんでときにこれをならふ。

問三　傍線部(2)「位雖不終、近古以來未嘗有也」を口語訳せよ。

問四　傍線部(3)「豈不謬哉」を平易な口語に置き換えよ。

問五　傍線部(4)「天也」とはどういう意味か。(A)の文章を参考にしつつ、四十字以内で説明せよ。

問六　司馬遷と揚雄は、それぞれ項羽の敗因をどう見ているか。七十五字以内で説明せよ。